

## 矢田貝家文書第一次調査概報

富 善 一 敏

### はじめに

東京大学経済学部資料室では、武蔵国江戸日本橋白木屋大村家文書・山城国相楽郡西法花野村浅田家文書・土屋家旧蔵文書など、近世・近代の古文書を数多く所蔵しており、経済学図書館ホームページから文書画像と目録を公開している。現在でも古文書(民間史料)の収集と整理作業を順次進めており、その一環として、平成 23 (2011) 年度から鳥取県西伯郡伯耆町上細見矢田貝家文書の調査に着手した。以下の小文では、今年度実施した 2 回の調査について、その概略を紹介したい。



図 1. 上細見周辺図

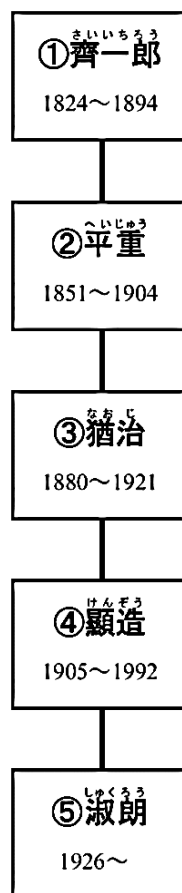
(『岸本町誌』(岸本町, 1983 年)付図「岸本町全図」)

### 1. 上細見と矢田貝家について

矢田貝家が所在する上細見は大山西麓、日野川右岸の沖積地に位置し、伯耆国会見郡に属した。近世期には一貫して鳥取藩領であり、元禄 14 (1701) 年に細見村(のち吉定

村)から分村し上細見村となった(図 1 参照)。村内を出雲街道が通り、日野郡と南境を接した。天保 5 (1834) 年の村高は 281 石 4 斗 2 升 8 合、幕末期の軒数・人数は 36 軒・145 人であった。廃藩置県により明治 4 (1871) 年に鳥取県、同 6 年の大区小区制期には鳥取県第 12 大区 2 小区であり、同 9 年に島根県、同 14 年には再び鳥取県に属した。明治 22 (1889) 年の市町村制施行時には大幡村大字上細見となり、同 29 年には会見郡・汗入郡合併により西伯郡に属した。昭和

図 2. 矢田貝家略系図  
(二階堂行宣氏作成)



30 (1955) 年に岸本町、平成 17 (2005) 年には日野郡溝口町と合併し、西伯郡伯耆町大字上細見となり、現在に至っている。

次に矢田貝家について述べる。当家は、古くはたたらかき(砂鉄から和鋼を製造する日本独自の製鋼法)に関係していたとも言われ、近世初期に出雲地方より伯耆国日野郡へ移住し、帰農したと伝えられている。その後近世中期に溝口(現伯耆町)に移り、後期に初代齊一郎氏(1824~94)が、現在屋敷がある上細見村に分家したことに始まるという(図 2 参照)。

矢田貝家は中規模地主であったが、戦後の農地改革により所有していた農地の大半が失われた。また屋号を「倉屋」と称し、日清戦争の頃まで醸造業を営んでいたが、日野川の氾濫で被害を受けたこともあり廃業したという。矢田貝家4代当主である顯造氏(1905-1992)は、旧岸本町の2代目町長を昭和42(1967)年から51(1976)年まで9年間勤めた。顯造氏は昭和60(1985)年に、現当主である5代目の淑朗氏(旧制松江高校に入学する昭和18(1943)年まで居住)の住む東京に転居した。そのため矢田貝家住宅はしばらく空き家の状態が続いていたが、邸内の最低限の維持管理が淑朗氏によりなされていた。平成13(2001)年より、主屋を蕎麦屋として利用しながら、全体の維持管理及び観光等への活用が行われている。なお平成23年7月、矢田貝家の主屋はじめ8棟が国登録有形文化財(建造物)に登録され、10月9日には記念式典が行われた。

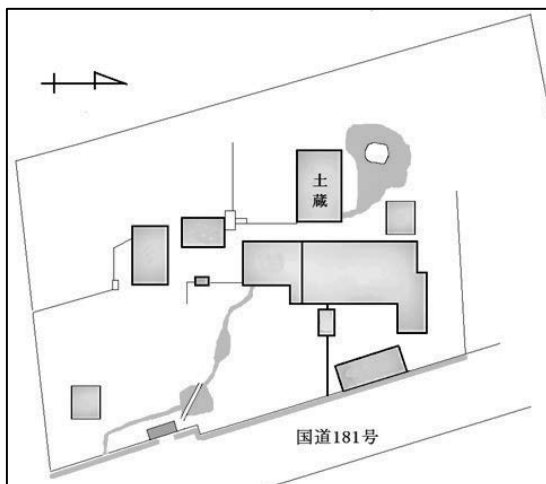


図3. 矢田貝家邸内配置図(二階堂行宣氏作成)

## 2. 予備調査

矢田貝淑朗氏の孫である二階堂行宣氏(東京大学大学院経済学研究科修士課程)は、筆者が毎年行っている大学院の演習(「近世・近

代古文書読解」、略称古文書ゼミ)の受講生である。二階堂氏から当家文書調査の依頼を受けた筆者は、同氏及び同ゼミ生の齋藤邦明氏(同大学経済学研究科博士課程・日本学術振興会特別研究員)の協力を得て、平成23年4月16~17日の2日間、矢田貝家文書の現状記録調査を行った。



写真1

矢田貝家土蔵



写真2

矢田貝家文書現状記録

文書の大半は、矢田貝家敷地のほぼ中央に位置する土蔵の2階にある(図3・写真1参照)。ちなみに土蔵の大きさは、1階が11.9×5.6m(面積66.64㎡)、2階が10.0×4.4m(同44.4㎡)である。2階は手前と奥の2部屋に分かれ、箆箒や棚の上、床奥などさまざまな場所に文書が収蔵されていた。

調査に当たってはアーカイブズ学(文書館学・記録史料学)の段階的調査方式を取り、今回の調査ではその第1段階として、文書のまとまりの現状を写真とスケッチで記録した(写真2参照)。記録を終えたまとまりは、現状をできるだけ崩さずに薄葉紙で包み、大小の段ボール30箱に収納したが、時間の関係上収納は全体の約6割にとどまった。また安政7(1854)年の彩色の家相図を発見し写真撮影を行った。なお蔵の1階も調査したが、比較的最近のものが多いため扱いは保留した。

## 3. 第1次調査

平成23年8月24~26日、上記3名及び小

島浩之氏（本資料室・講師）・小島庸平氏（東京大学大学院農業生命科学研究科・農学特定研究員）・棚井仁氏（一橋大学大学院経済学研究科修士課程）の6名で第1次調査を行った。調査前の7月25日に参加者全員による打ち合わせを行い、調査の方法を確認し、矢田貝家に関する知見を深めた。

まず土蔵2階の残りの帳簿類を段ボール箱約20箱に収納した。これと並行して、土蔵1階及び主屋ナンド・オクナンドにある史料(教科書、手習、襖下張り文書、地券、各種版本・書籍、祝儀・不祝儀関係文書)の現状記録写真撮影及びスケッチを行い、段ボール箱20箱に収納した。次に第2段階の概要調査に着手し、蔵2階奥部屋西面の帳簿類からまとまりごとの文書の年代や内容を、専用の目録用紙に記入した(19単位終了)。また虫が実際にいたため、応急的にバルサンによる蔵の薫蒸を行い、蔵2階奥部屋西面に簀の子を敷いた。なおスケッチ及び概要目録のサンプルを末尾に掲げたので参照されたい(図4・5)。

毎日の調査終了時にはミーティングを行い、調査成果を共有した。8月25日には伯耆町教育委員会を訪問し、教育長・後藤<sup>わたる</sup>氏はじめ関係者に本調査の概要を説明し、今後の協力を要請し了解を得た。26日には、矢田貝家住宅の有形文化財登録に尽力された、米子工業高等専門学校建築学科助教・藤木竜也氏（建築史専攻）にお会いし、調査の概要を説明するとともに、今後の協力をお願いし、快諾をいただいた。

#### 4. 史料の内容（今回調査分）

今回概要調査を行った文書は、全て土蔵2階奥部屋西面床上のものである。調査が終了した文書の概算点数は2,900点であり、番号

を付したまとまり毎の内容は以下の通りである。なお各まとまりはできるだけ現状（調査時点での資料の配列状態）を尊重したが、形態や年代で並べ替えたものもある。

- 1：明治12（1879）～同45年万買帳、大福覚帳、田畑山林字寄帳、所有土地台帳、諸税収入控、田畑宛<sup>あてさく</sup>作帳、宛口米取立帳。33点。シバンムシ幼虫による虫害がみられたので、清掃を行い幼虫を除去した。
- 2：文化元（1804）年節用集、明治10～41年算用帳・売買帳・買入帳、明治前期宛口米関係文書(取立帳・改正実施記ほか)、明治12・20年家相図及び関係文書。約100点。
- 3：明治期の酒・醤油醸造関係帳簿(計算簿、蔵出帳、仕入帳、申請書、貸簿明細、免許願、営業人心得、酒造組合調査簿)、地主経営関係文書(宛口米取立帳、日記帳)、経営その他(職人日雇控帳、車馬賃帳、質札紛失証書綴)、天保4（1833）年商売復来、万延元（1860）年伊呂波、年次不詳田舎村名付など。102点。
- 4：明治期の諸税完納帳、質物台帳、流質物売却払帳、車馬賃帳など。17点。
- 5：明治7～18年当座帳・書出帳。6点。
- 6：明治10年代～大正初年の地主経営関係文書(宛口米関係、掛取帳、米受払帳、夫役負担控、流質物届書手控綴、連年営業税届書類)、明治34～43年歳入歳出、諸達綴、大正3（1914）～5年の公務関係文書(尾高井手普通水利組合書類、大幡信用購買組合、大幡村歳入歳出、西伯郡農会農事彙報)など。約80点。
- 7：明治32～35年の手帳類。10点。
- 8：明治期の酒造関係文書(日記、酒類売揚帳、西伯郡酒造業組合酒価一定契約、受

検査簿及桶根帳、搗米勘定帳、精米勘定帳、明治 27 年酒造営業願書扣(酒造高 403 石 9 斗 8 升 6 合)、明治 31~41 年度矢田貝合名会社酒類醤油申請告書、桶根帳)、嘉永 7 (1854) 年必佳恵<sup>ひかえ</sup>、明治 10 年議事書類袋一括(明治 44 年矢田貝猶治郡会議員当選)、大正 2 年鳥取県西伯郡統計一班など。約 70 点。一部写真撮影。

9 : 麻紐の括りが 4 束あり、1~4 の枝番を付した。今回は 2 まで終了。1 は文久 3 (1863) 年松江藩主御通行御道筋案内手引帳、慶応 2 (1866) 年小謡、明治 30~44 年当座預金通帳、明治 6~23 年鳥取県布達・公文彙報、明治 29 年共親講規則及人名簿(発起人大谷吉郎)、明治 19~21 年矢田貝平重免許質屋品触綴帳、大正 4 年矢田貝猶治宛年賀状など。約 150 点。一部写真撮影。2 は大正 5~7 年に矢田貝猶治氏が株式を取得した中国貯蓄銀行・山陰電気株式会社・米子銀行の、明治 30~大正 7 年の営業報告書。95 点。

10 : 大きな麻紐で括られており、その中でさらに紐で括られているまとまりを 1、それ以外の文書を 2 とした。当家により帯封付きの束に纏められており、一括形態を尊重した整理が望ましい。1 は安政 2 (1855) 年~明治 22 年の土地証文の束であり、うち 2 つは「動不動産買得証書入」の上書のある袋に入れられていた。2 は嘉永 7 年上野・上細見・立岩三ヶ村田畑名寄帳(清国屋佐市郎)、安政 3 年田畑名寄帳(同、9 反 4 歩半・高 7 石 9 斗 2 升 7 合を本家より分配)、明治 3 年上細見村分・上野村分田畑名寄帳(久良屋)、明治 38 年相続登記関係書類(明治 19 年 12 月 28 日付矢田貝平重上細見村組合第 2 組伍

長当選証書あり)、酒造諸類扣、明治 30 年米子銀行より金千円借用関係書類綴など。約 340 点。一部写真撮影。幕末期の矢田貝本家から分家する過程がよく分かるまとまりであり、今後詳細な分析が必要である。

11 : 明治 31~大正 9 年債務不存在確認事件・調和一件関係文書・書翰類。袋に小分けされている。約 330 点。

12 : 明治 21~大正 9 年酒造関係書類、酒造組合有用書(矢田貝酒店は明治 36 年組合の評議員、共富講概略規則書あり)、中国貯蓄銀行配当・増資等株主宛書簡、金穀貸付証書、買物帳、通帳、出納帳、土地名寄帳、宛口不足帳、書簡の束など。明治 29 年婚礼法事控帳、弘化 3 (1846) 年立岩村田畑名寄帳あり。約 850 点。

13 : 文化 12 (1815) 年乍恐願下一札之事(山論)、明治 16~37 年吉岡村宛口米差別書類、同 23~28 年質屋取締法令施行細則綴、同 44 年西伯郡統計一班・同職員録、明治末~大正年間日記・出納簿、明治末年計算帳、久古番原宛口米関係書、五千石村関係封筒一括、王子村始末書類袋入一括、対矢田貝合名会社金銭貸借控(矢田貝本家)、大滝地所関係書類封筒入一括、明治期教科書(日本地誌・今代史・Practical Book Keeping(商業簿記)ほか)など。約 230 点。一部写真撮影。

14 : 麻紐で文書と木箱 2 つが括られていた。明治 5 年日野郡上野村・大江村地価帳総計田畑取立帳、同 6 年第 98 区日野郡上野村税引地名調帳、第 98 区日野郡大江村高反別帳・地租下調帳、明治 9 年伯耆国日野郡上野村地内田畑山林所持限書上地券証御下渡願帳、明治 21 年伯耆国汗入・会

見・日野郡酒造営業組合規約、明治22年度第4小区経費徴収帳・精算帳・区費仕払部、第99組大切書類袋(矢田貝平重)、西・戊寅年要用書類入一括など、明治期の行政・経営関係文書が多い。ほか明治6年5月5日付米子新聞第1号、三崎社四季句合、明治20年代の錦絵など。約300点。

15: 麻紐で括られていた。明治8年金銭判取帳(矢田貝齋一郎)、明治26~28年醤油仕込帳・生成帳・売上帳・貸売帳、麹製造帳、明治25~29年酒造関係文書(売揚帳・原料仕入など)、明治30年代矢田貝合名会社関係書類、明治37~大正3年原帳・出納帳・諸払明細帳・仕訳日誌帳・会計綴など。約110点。

16: 明治19~43年醤油貸売帳・容量控帳・売上帳・粕目方帳・精算控帳、日記帳・原帳・諸勘定帳・雑費内訳帳・仕訳日記帳など、27点。

17: 明治13~21年金銭判取帳、同34~42年酒類製造帳・受払帳など。46点。

(18は未調査)

19: 明治4年算用帳、同31~34年当座日記帳。8点。

20: 明治36~42年当座日記帳。14点。

#### むすびにかえて：今回調査の成果と今後について

まず、現在分かる限りでの矢田貝家文書の全体像について述べる。概要調査に着手したばかりの段階ではあるが、4代当主顯造氏が文書を自ら整理した痕跡がみられる。幕末期~戦後期の地主経営関係文書(土地・小作・酒造・醤油関係帳簿類、事項別に分類し袋に収納された一件書類)や書簡類(年次別に括り紐で一括)、経営関係帳簿、毎年の日記など

多彩かつ豊富な内容を含み、全体点数は1万点を超えると予想される。日本地主制史研究・地域社会史研究に裨益することが大きい素材であろう。

今回の調査成果を確認し、経済史・日本史など関連する学問領域に位置付けるために、第1次調査後に調査参加メンバーによる研究会を、9月27日、11月10日、2012年2月14日の3回、東京大学経済学部資料室で行った。大石嘉一郎編『近代日本における地主経営の展開ー岡山県牛窓町西服部家の研究ー』(御茶の水書房、1985年)など日本地主制史研究の基本文献の読書会及び、第1次調査時に写真撮影し、小島庸平氏がデータベース化した大正3(1914)年の土地名寄帳、昭和3(1928)年の田畑台帳など、矢田貝家文書中の地主関係帳簿の検討を行った。この研究会は、来年度以降も毎月開催する予定である。

今後の調査計画であるが、来年度以降第2段階の概要調査を、今回と同規模で2回程度行う予定である。概要調査の済んだものについては資料室に移送し、第3段階である内容調査(文書1点毎のリストの作成)の実施を行いたい。また、当家の蔵2階に収蔵されている膨大な掛軸類・道具類や書籍の調査、明治期以降の戸長役場文書など行政文書調査、鳥取県立公文書館等での地方新聞資料調査、矢田貝本家など近隣の地域史料調査も必要である。必要な保存措置の実施も欠かせない。そのため多額の費用が必要であり、外部資金を獲得すべく研究助成の申請についても準備を進めているところである。

まだ始まったばかりの調査であるが、矢田貝家文書の調査を通して、研究が遅れている山陰地域地主制の研究、当家文書のアーカイブズ学的分析、地方名望家の文化生活など興

